

令和2年度 健都コーディネート機能構築事業

1 事業の趣旨・目的

JR岸辺駅北側においてまちづくりが進められている北大阪健康医療都市「健都」については、大阪府の成長産業（ライフサイエンス産業）の拠点と位置づけ、健康医療関連企業等の集積と、健都内外と連携した医療クラスターの形成をめざしている。

昨年7月に国立循環器病研究センター（以下、「国循」という。）がオープンし、本年1月には国立健康・栄養研究所（以下、「健栄研」という。）の移転先となる民間賃貸施設（アライアンス棟）の整備・運営事業者が決定するなど、健都の主要施設の立地、整備が進んできた中、健都の窓口となって内外をつなぎ、産学連携を推進する取組みが求められている。

本事業は、上記のような、健都内外をつなぐコーディネート機能の構築をめざし、ワンストップ窓口の設置に向けた検討を実施することを目的としている。

2 業務の内容

本事業では、健都のコーディネート機能の構築に必要な大阪のライフサイエンス産業の現状や課題等を踏まえ、事業者が、高度な専門性やノウハウ等を活かして、次の業務を実施する。

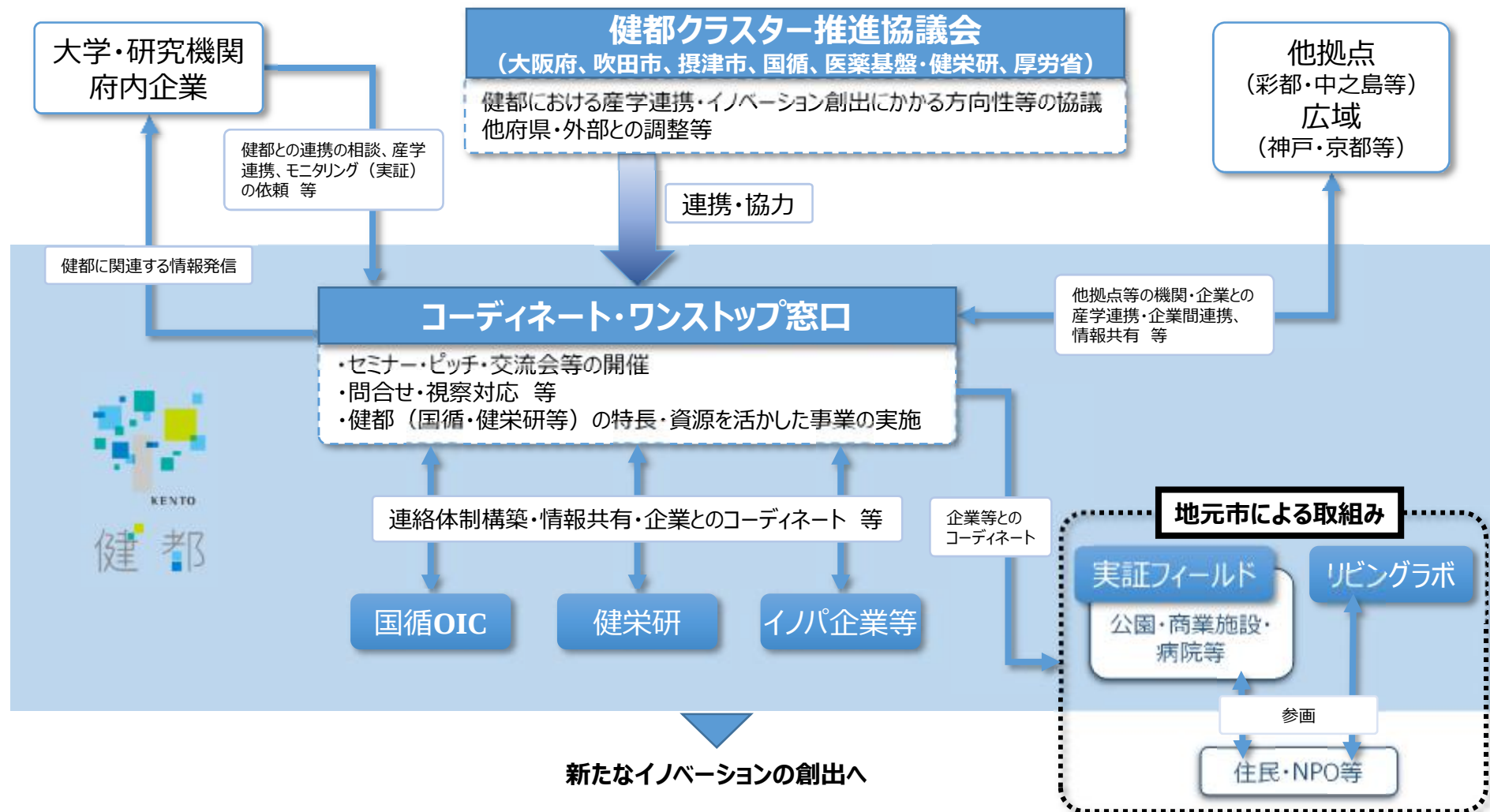
○健都のコーディネート機能の設計

- ・健都内外とのネットワーク構築による産学や企業間の連携を後押しするとともに、幅広い企業や研究機関等からのニーズに対して、国循や健栄研をはじめとする健都全体で対応するためのワンストップ窓口の設置に向け、具体的機能・事業内容を検討。

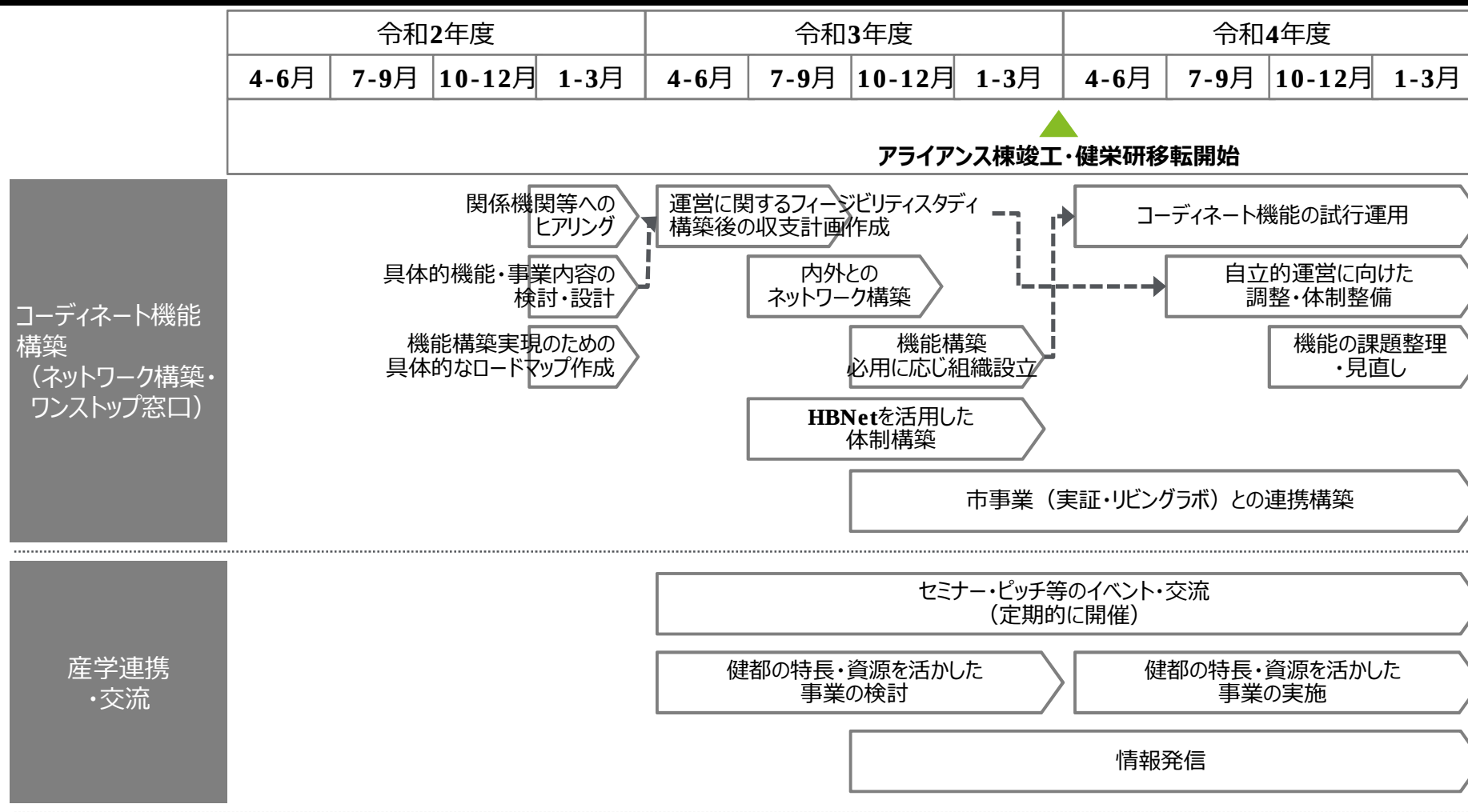
検討にあたっては、以下の内容を盛り込むとともに、今年度を含め3年度以内でコーディネート機能を構築でき、構築後において自立的・持続的な運営をめざす。

- ①健都に立地する各機関（国循、健栄研、健都イノベーションパークに立地する企業等）との連携体制を構築し、情報共有や府内企業とのコーディネートができる体制。
- ②大学・研究機関や府内企業のニーズを踏まえた健都とのコーディネート機能。構築にあたっては、健康産業創出システム「HBNet」*の機能を活用。
*HBNet・・・健康分野における府内企業のニーズと大学・研究機関のシーズをマッチングするプラットフォーム
- ③府内の他のライフサイエンス産業拠点（彩都・中之島（未来医療国際拠点）等）や、京都・神戸などの広域での連携体制。
- ④吹田市において検討を進めている、健都における実証フィールドやリビングラボと企業等とをつなぐ仕組み。
- ⑤健都の特長・資源を活かした事業の企画・提案や、セミナー・ピッチ等の企画・実施機能。

健都におけるコーディネート機能のイメージ



健都におけるコーディネート機能のロードマップイメージ



今後の主な検討内容

- ・自立化に向けた方策の検討（運営主体・マネタイズ等）
- ・コーディネート機能における国循・健栄研の位置付け
- ・吹田市事業との連携体制
- ・HBNetの活用方策 など